

PapaのLife

「北さんが主夫になったワケ」

北佳弘さん



—いつも、PapaLifeにご登場いただいています。今回は改めてお話をつかがいてほしいと思います。

早速ですが、単刀直入に「主夫になった理由」をお話していただいて良いでしょうか。

北さん…はい。最初に、僕と妻は学生時代からの付き合いでした。これは、主夫になるときに大きな下地になっていたと思うのですが、つまり、よくお互いを理解していました。一緒に暮らしていて、お互いに家事や料理をして助け合いながら生活をしていたんです。

—なるほど、北さんも料理できますよね。そこから主夫になっていくのですか？

北さん…ところが、僕はもともと主夫になりたいと思っていたわけではありませんでした。むしろ、家に帰ったらお風呂が用意してある、というような「亭主関白」の考え方を持っていたんです。

—北さんも大学卒業後、働かれていますよね？

北さん…はい。会社員を経て実家が自営業をしていたので、そこで一緒に働いていました。幸い両親も一緒だったので、店を見てもらっている間に、子どもをオープンスペースに連れて行くなどもしました。

—主夫になったのは、どのタイミングなのですか？ その際、奥さんと話し合いましたか？

北さん…次男の育休が終わるころです。ちょうど家を建てて引っ越しをするころになり、実家の営業も人手がいらなくなってきたということが、きっかけでした。妻との話し合い・すり合わせは、しっかり時間をとってお互いが納得いくまで行いました。うちの妻は結構サバサバしていて、男らしさのようなものがあります。また、僕の方が家事は得意。そうしたお互いのこともよく分かっていたので、その上での話をしました。

—世間から見た、主夫というのはマイナー存在だと思うのですが、抵抗はなかったですか。また、両親は何か言われましたか？

北さん…関東の方では早くから「レノンパパ」という主夫の集まりがあるくらい、「主夫」をしている人はいます。ですが確かに、地方では世間から見たらいわゆる「ヒモ」と言われたり、

ました。それはなぜかという、自分の実家がそういう家だったからですね。でも逆に妻の家庭は、両親が共働きでおいちゃんとおばあちゃん子育てをするというような家庭でした。

—では、子育てについてもお互い考え方の違いがあったんですね。

北さん…ええ。妻は、小さいころから子どもを保育園に預けるということに全然抵抗がありません。僕は、今では保育園に預けるという手段を理解できるのですが、当時は賛成できませんでしたが、ポウルビィが提唱した、特に3歳までは母親が子どものそばにしっかりと付いて見ていた方が良く、という教育のあり方が世間の中であつたので、それが強く心にあつたのです。「3歳児神話」というものですね。

マイナスなイメージがありますよね。最初は、僕自身も周りの目を気にしたこともあつたかもしれませんが、偏見もあつたかもしれませんが、子育てをしていくうちに、だんだんと男性が育児をしていく上での壁の方が気になっていきました。このときの経験が、現在の情報発信をするということにつながっています。なので、今は全然負い目などは感じていません。

ですが多分、主夫になる人の理由の半分くらいは「働けなくなつてしまったから」ということが多いのではないのでしょうか。きつと「自分は主夫です」と自ら言う人はあまりいないと思います。僕のような経緯で主夫になっていく人は、少ないでしょうか？ そういう方々にとつてみると、まだまだ抵抗を抱えて葛藤している場面もあるかもしれませんね。両親は、自営業のときから僕が子育てしているのを見ていたので、特に何も言わなかつたです。

—たまたま主夫になったことが、現在の仕事につながつていったんですね。相手の両親の方は何か言われましたか？

北さん…どうでしょうね？（笑）分からないです。でも実際、妻の方が世間的に見ると大変だと思います。僕が主夫になつているのも珍しいことかも

—それで、北さんがお子さんの面倒を見るように？

北さん…妻は看護師、専門職として働いています。そして妻の職場では当時、電子カルテを導入するという時期でした。せつかく現場に慣れてきたのに、今、仕事を辞めてしまうと「電子カルテ」が分からず復帰するのが難しくなってしまうかもしれない。ここで、学生時代からの付き合いの話が絡んでくるのですが、妻が「仕事をしたい」と強く望んでいたこと、また学生時代の大変ながんばりも見ていたので、仕事を続けさせてあげたいと思いました。妻は夜勤があつたり、朝6時〜夜8時まで出ている、と働き詰め。そのため、僕が子どもの面倒を見ました。

しませんが、妻が一家の大黒柱となつて、家や保険などの名義になっている家庭は珍しいでしょうか？ 妻の努力があつてこそ成り立っていますので、やはりそれは感謝しています。

夫婦でお互いを尊重し合い、思いやりを持って、役割を決めていく。十分に話し合いをしながら進めること、やはりこれが夫婦一緒に育児をする最大のポイントかもしれません。



Next number
 次回は少し大きくなった北さんのお子さんが、育児するパパに示した反応。育児パパが社会に出たときにどういったことが起こったのか。北さんが経験した子育てをお話していただきます。